

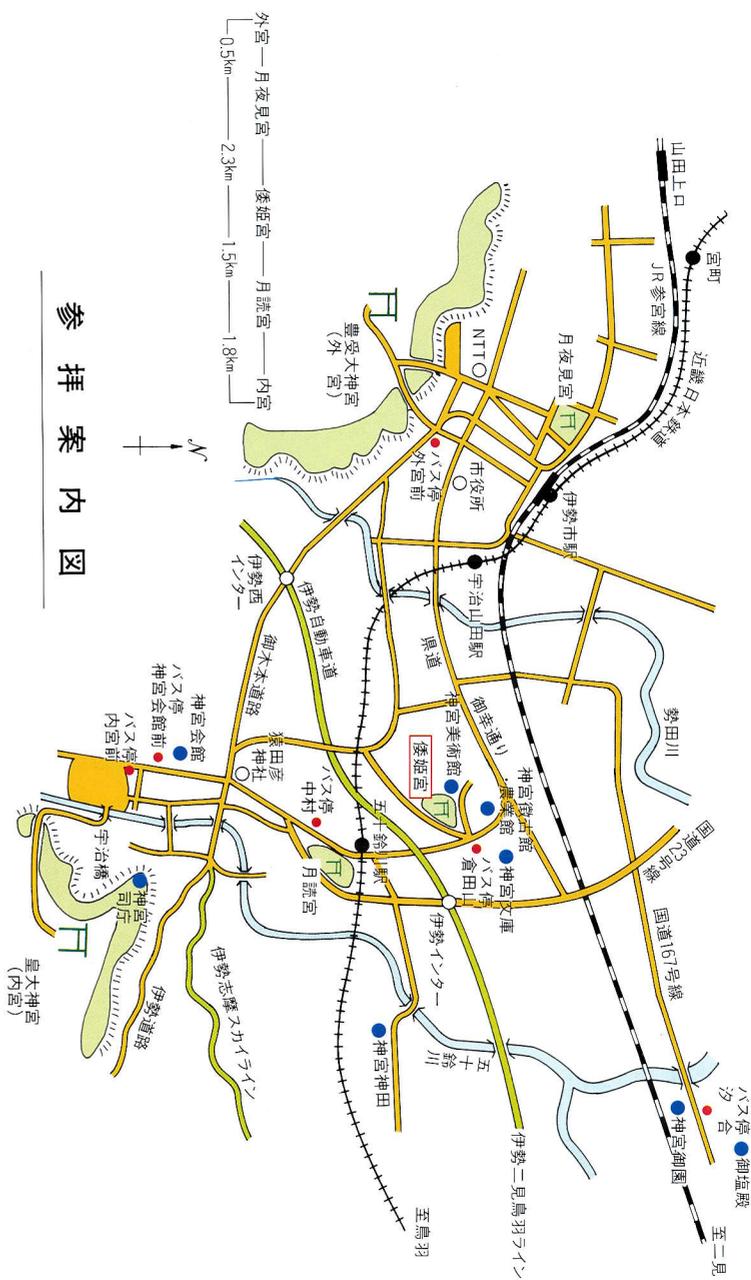
皇大神宮別宮

倭姫宮

参拝のしおり



神宮司廳



皇大神宮別宮

倭姫宮

一、御祭神

倭姫宮は、皇大神宮（内宮）の別宮で、おまつりする神様は倭姫命です。

倭姫命は天照大神の御神教をうけて約二千年前に、五十鈴川の川上、現在の場所に皇大神宮をご創建されたお方です。

二、御鎮座地

伊勢市桶部町

内宮と外宮を結ぶおよそ五キロの美しい並木道路、御幸通りの中ほどに、松の緑もあざやかな丘があり、

方を齋王と申し上げます。

倭姫命は皇大神宮御鎮座ののち、神嘗祭をはじめとする年中の祭りを定め、神田並びに各種のご料品を奉る神領を選定し、禰宜、大物忌以下の奉仕者の職掌を定め、齋戒や祓の法を示し、神宮所属の宮社を定められるなど、神宮の祭祀と経営の規模を確立されました。このように大きなご功績をお遺しになられた命の御徳をお慕いして、大正の初年から神宮司庁と宇治山田市（現在の伊勢市）が命をまつるお宮の創立を請願してきましたが、大正十年一月四日、皇大神宮別宮として当宮のご創立が許可され、同十二年十一月五日に御鎮座祭が執り行われました。

神宮には、別宮・摂社・末社・所管社の諸宮社があり、御由緒は極めて古く、奈良時代以前に遡るものが多いのですが、当宮は右のようなご事情により創立が極めて新しいのです。

倉田山と呼ばれています。ここには神宮徴古館・農業館・美術館・神宮文庫・皇学館大学等があり、これに接する四ヘクタールの常緑の森が当宮の宮域です。

参拝の順路は、JR東海伊勢市駅と近鉄宇治山田駅から三重交通神都線バス（外宮・内宮循環）の「倉田山」で下車すると、すぐ表参道の鳥居が見えます。

三、御鎮座の由来

倭姫命は、第十一代垂仁天皇の皇女です。第十代崇神天皇の皇女豊鍬入姫命の後を継いで「御杖代」として皇大神宮に奉仕され、皇大神を戴いて大和国をお発ちになり、伊賀・近江・美濃等の諸国を経て伊勢の国に入られて、御神慮によって現在の地に万代不易の皇大神宮を御創建されました。「御杖代」とは皇大神の御杖となつて、御神慮を体して仕えられるお方の意です。倭姫命から後、代々の天皇は未婚の皇女を伊勢に遣わして皇大神宮に奉仕させられましたが、このお



皇大神宮奉祀（矢沢弦月画）



表参道入口

四、恒例のお祭

当宮は、正宮に準じて祭典が行われ、祈年、月次、神嘗、新嘗の諸祭には、皇室から幣帛が供えられます。

一月	一日								
一月	三日								歳旦祭
二月	十一日								元始祭
二月	二十日	午前八時	大御饌						建国記念祭
五月	十四日	午前十時	奉幣						祈年祭
六月	二十四日	午後十時	由貴夕大御饌						風日祈祭
六月	二十五日	午前二時	由貴朝大御饌						月次祭
八月	四日	午前十時	奉幣						風日祈祭
十月	二十四日	午後十時	由貴夕大御饌						神嘗祭
十月	二十五日	午前二時	由貴朝大御饌						神嘗祭
十一月	二十六日	午前八時	大御饌						新嘗祭
		午前十時	奉幣						新嘗祭

十二月	二十三日								
十二月	二十四日	午後十時	由貴夕大御饌						
十二月	二十五日	午前二時	由貴朝大御饌						
		午前十時	奉幣						
月	天								
次	長								
祭	祭								

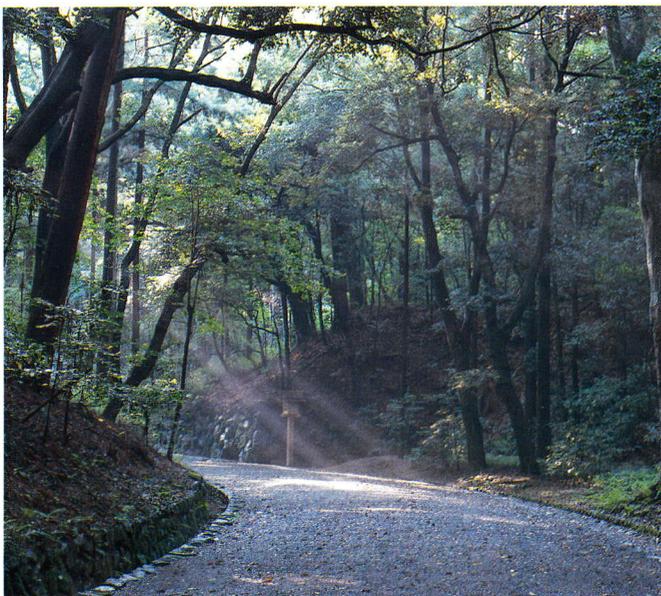
五、域内の案内

御社殿の構造は内宮に準じ、神明造で南面。御屋根の鯉木は六本、東西両端には内宮と同じく内削ぎ（水平切）の千木が高く聳え、周囲には瑞垣、玉垣の御垣があり、瑞垣御門と鳥居があります。

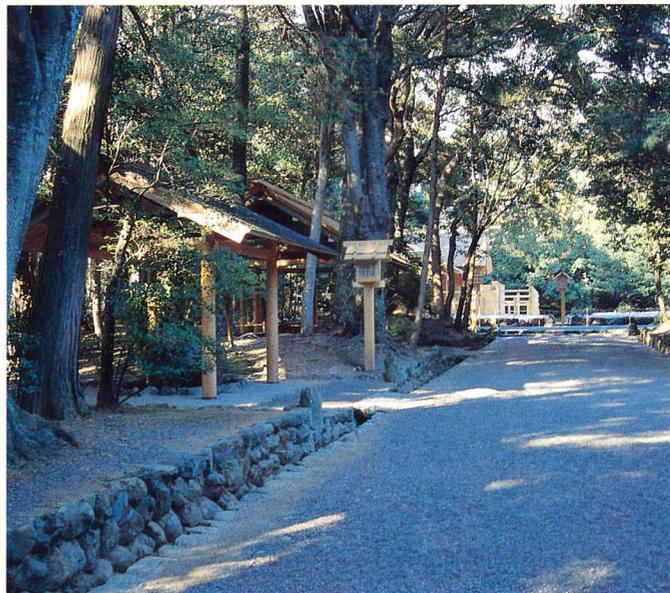
正殿横の空地は古殿地といひ二十年毎に新しい御社殿を建て替えて、神様のお遷りを願う式年遷宮の御敷地です。

宿衛屋では御神楽・御饌の取り次ぎ、また大麻・守祓の授与、参拝証印の押捺等をお取り扱っております。

なお、宿衛屋の西側には参道を隔てて祓所、手水舎、祭器庫があります。



表参道



手前から手水舎と祓所

六、崇敬と講組織

倭姫命を通じて下された数々の御教^{みおし}えは、代々の神宮神職の奉仕の指針となり、中世の伊勢神道と共に、いよいよひろくその教えが世に広まりました。伊勢の市民は、郷土をお拓き下されたみ恵みを仰ぎ、命^{まこと}に寄せる崇敬と親愛の念が極めて厚く、昭和二十三年には、ご神徳を敬慕^{けいぼ}し、報恩感謝の誠を捧げるため、崇敬者によって「御杖代講^{みゑぢしろ}」が結成されました。現在は倭姫宮御杖代奉賛会として、五月五日には春の例大祭、十一月五日には秋の例大祭を盛大に執り行なっています。

七、倭姫命の御教^{みおし}え

中世以来、伊勢の神道説は正直・清浄を主徳とし、五部の神書をもってひろく唱道されました。殊にそのひとつ『倭姫命世記』は、倭姫命が宣り下された御教

事も、万事違う事なくして、大神に仕え奉る。元^{もと}を元とし、本を本とする故なり。

えが多く伝えられており、人びとから大層尊重されてきました。

神から生命をわけ与えられた人は、真心をそこなうことなく、正直と清浄の敬神生活を送らなければなりません。

人は天下の神物^{かみもの}なり。心神^{こころ}を傷^{いた}ましむることなかれ。

神は垂^たるるに祈^{いの}禱^ごをもつて先となし、冥^{めい}は加^くうるに正直をもつて本となせり。

神を祭^{まつ}るの礼は、清浄をもつて先となし、真^{まこと}信^{まこと}をもつて宗^{しゆ}となす。

また、自然の秩序ながら神仕えのまことをつくす左々右々、万事を根源に帰しみる元々本々など、神宮相伝の教えごとがみごとに語り示されております。

黒心^{くろこころ}なくして、丹心^{にこころ}をもちて、清^{いさ}く潔^まく齋^いり慎^{しん}しみ、左の物を右に移さず、右の物を左に移さずして、左を左とし右を右とし、左に帰り右に回る



森蔵を保つ美しい石段